

今回「第四編」の主な内容について

令和6年(2024)2月19日

辻 謙一

1 要旨

- これまで第三編まで現地調査した箇所、新規箇所を追加し主な災害別に「体系的」に並べ替え整理した。
- 精度を高めるため、その後、現地調査等での把握箇所について、一部、「碑文原文」、「碑文要約」及び「碑文背景」について、加筆訂正した。
- 「全体中間報告」とし、現時点までの「中間取りまとめ」とした。
- 数量のカウントは、1箇所に複数種類の災害区分の伝承施設等があれば、個別複数を原則とし、箇所数の算定を見直した。
- 年号表記も、碑文原文以外は、例として、「令和6年(2024)」というふうに統一した。

	第三編まで	第四編(今回追加分)	累計
◇大阪府	125 箇所	15 箇所	140 箇所
◇京都府	90 箇所	48 箇所	138 箇所
計	215 箇所	60 箇所	278 箇所

2 災害区分

◇大阪府	箇所数
安政南海地震	6
淀川水害(明治18年)	29
淀川水害(その他)	10
大和川水害	4
寝屋川水害	4
室戸台風(学校内)	17
室戸台風(その他)	20
水防碑(大阪市内)	14
阪神・淡路大震災	6
火災	1
東日本大震災	1
昭和10年水害	1
疫病	2
分類困難・その他	25
計	140

※「その他」とは寺院等
※概ね区役所単位

◇京都府

淀川水害(明治18年)－	1	
丹後大震災	39	
室戸台風(学校内)	8	
室戸台風(その他)	10	※「その他」とは寺院等
昭和10年水害	5	
亀岡平和池水害	3	
昭和28年水害	17	※同年の台風13号水害も含む
由良川水害	20	※水系含む(昭和28年水害は内数)
火災	8	
疫病	1	
分類困難	26	
計	138	

3 画像

◇公開画像は、今後の防災的視点から、石碑等とともに、可能な範囲で災害後の現地状況（河川・山・校舎等）を盛り込むこととした。

◇可能な限り、地域等の災害の伝承活動も個票に掲載するよう努めることとした。

4 特記

◇地震等の正式名称は気象庁が命名されるが、一般的に使用されている名称を記載している。

例 「平成7年(1995年)兵庫県南部地震」⇒「阪神・淡路大震災」

◇「碑文原文」、「碑文要約」及び「碑文背景」いずれも参考である。
誤謬等あればご指摘願いたい。

◇今回資料は、令和6年(2024)1月17日時点のものであるが、今後、現地調査等により、可能な範囲で、箇所及び内容について、精度を上げていくこととする。

5 参考文献

- 「川の碑」 川の碑編集委員会(山海堂)
- 「天災から日本史を読み直す-先人に学ぶ防災」磯田道史氏(埼玉福祉会)
- 「濁流が走る 新聞記事にみる淀川・大和川の洪水」(淀川・大和川洪水予報連絡会)
- 「震災記念碑：後世に残された北丹後地震の記録」今井利宗氏、金折裕司氏編([山口大学大学院理工学研究科])

- 土木史研究第 15 号 1995 年 8 月 琵琶湖の歴史洪水と瀬田川浚渫についての土木史的研究 竹林征三氏 今井範雄氏
- 京都歴史災害研究第 11 号 (2010) 17 ~ 29 室戸台風、大阪での暴風・高潮の被害 長尾武氏
- 京都歴史災害研究第 15 号 (2014) 1 ~ 10 近代大阪人の災害意識と地震時における避難行動 飯田直樹氏
- 京都歴史災害研究第 18 号 (2017) 17 ~ 27 明治 18 年の淀川洪水と北河内 片山正彦氏
- 京都歴史災害研究第 19 号 (2018) 13 ~ 24 室戸台風による京都市とその周辺の学校被害と記念碑 植村善博氏
- 京都歴史災害研究第 20 号 (2019) 43 ~ 51 大阪府における明治 18 年「伊加賀切れ」に関する記念碑について 木谷幹一氏